

令和8年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔工学部第二類（電気電子・システム情報系）〕

プログラムの名称（和文）	半導体システムプログラム
（英文）	Program of Semiconductor Systems
1. 取得できる学位 学士（工学）	
2. 概要 電気、電子、システム、情報の分野ならびにその関連分野は技術革新が急速に進んでおり、特定分野の専門知識の深化によるもののみならず、複数の専門知識を融合させることにより、革新的な技術やアイデア、理論が生み出される状況にある。また、そのような技術等が社会に与える影響もより大きくなりつつあることより、人間、社会、自然との関わりを常に視野に入れることも必要とされている。 工学部第二類（電気電子・システム情報系）ではこのような社会の動向を踏まえ、広い視野と見識、責任感と倫理観を備えると同時に、深い専門性と技術および問題分析・解決能力を有する人材を育てることを目的として、以下のプログラムを準備している。 ・ 半導体システムプログラム ・ 電気システム情報プログラム 工学部第二類（電気電子・システム情報系）に入学した学生は、特別な事情がある場合を除いて、入学後1年間の教養教育ならびに専門教育を経て、2年次開始時に上記2つの選択肢から本プログラムを選択することができる。 半導体システムプログラムは、集積回路（LSI）などの半導体デバイスを中心とした電子工学（エレクトロニクス）を学習するためのプログラムである。 半導体デバイス技術は、電子化・情報化が進む現代社会を支える中心的な技術の1つである。今日われわれは、音響・映像機器（テレビ、ビデオなど）、情報処理・通信機器（コンピュータ、インターネット、スマートフォン、ウェアラブル端末など）、輸送機械（自動車など）、家庭電化製品（調理器具など）、医療・診療機器、工場の製造装置など、多くの機器・装置を日常生活や仕事で利用しているが、そのほとんどは、半導体デバイスによって簡単な操作で複雑な処理を実行できるようになっている。今後、ますます重要性を増すと予想される医療・介護用機器や災害現場での作業ロボットなどでは、今まで以上に複雑な動作を実現する操作性が求められる。そのためには、高性能・高機能センサーなどによる状況検知とLSIによる複雑な情報処理は不可欠である。さらには機械学習や人工知能を用いた判断・処理も実現しつつある。 一方で、今後深刻になると予想されるエネルギー・地球環境問題においても、多くの課題を解決してゆくために半導体デバイスを中心とした電子工学技術の果たすべき役割は大きい。エネルギーを生み出す半導体デバイスである太陽電池だけではなく、様々な装置を効率的に動作させ、無駄なエネルギー消費を減らすためにも、半導体デバイスの利用が不可欠である。もちろん、半導体デバイス自体の消費エネルギーを減らしてい	

くための新しい技術も求められる。また、生成AIや量子コンピュータなどの発展が著しいテクノロジーにおいても半導体デバイスとそのシステムが基幹技術であることは言うまでもない。

これらの要求に応えるためには、現在の半導体技術をより洗練してゆくと同時に、新しい材料や新しい動作原理の導入、異分野と融合した技術開発が必要である。本プログラムは、体系的な知識と革新的技術の開発能力を持ち、これらの課題の解決において中心的な役割を演じることが出来る人材を育成するために、量子物理、半導体基礎物性、情報処理演算の仕組みなどの基礎知識から、ナノメートル寸法の高性能電子デバイス、高機能集積回路システム、プロセッサの動作など半導体に関する基礎から応用までを体系的に幅広く学習できるカリキュラムを提供する。

半導体システムプログラムには以下の特徴がある。

(1) 物性・材料、半導体デバイス、集積システム、情報処理システムアーキテクチャの各分野に関連する科目を順序良く学べるよう、授業科目が配置されている。また、授業科目は、各分野の科目間の関連を考慮して配置されている。

(2) 2年次において各分野の入門・導入的科目（電子物性基礎、論理システム設計、半導体デバイス・回路基礎）が用意されており、学習する専門科目群の全体像が修得できるように配慮されている。一方、3年次後期には最新の科学・技術を含む多彩な専門科目が開講されている。

(3) 材料・半導体デバイスの基礎となる物理・固体物性に関する科目が用意されており、革新的な技術開発に必要な基本原理を学習することができる。

(4) 電気・電子回路の基本からコンピュータの構成や動作に至る、最新の集積回路の設計技術や通信及び情報処理システムに関して系統的に学習することができる。

(5) 本プログラムでは、材料、デバイス、集積回路といった、実際の「もの」に即した知識・技術の習得や研究に重点を置いている。卒業研究においては、新しい動作原理の理論、機能材料の作製や物性評価、新機能デバイスやナノメートルサイズ半導体デバイスの製作、実用システムに利用できるアルゴリズムや集積回路の設計・試作などの最新の研究に関するテーマが設定されている。

(6) 他のプログラムとの連携により、電気エネルギー、電子制御、信号処理、情報処理、ソフトウェアなどに関する科目も学習することができる。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）

半導体システムプログラムでは、新しいデバイスの基礎となる物性・材料分野、ナノメートル寸法の高性能半導体デバイス分野、および高機能集積回路を中心とする情報システムアーキテクチャ分野に重点をおいた教育を行う。それぞれの分野の基本概念から先端的な知識、さらに相互の関係を体系的に習得させることで、半導体工学分野の技術開発を先導できる人材や、今後ますます重要性を増す、異分野との融合による革新的技術の開発能力を持った人材の育成を目指している。

具体的には、本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、以下の到達目標を達成するように編成された専門教育を履修し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

【到達目標 A】 科学・技術と人間・社会・自然環境とのかかわりを多角的にとらえ、技術者が社会に対して負っている責任を理解することができる。

【到達目標 B】 半導体システム分野において必要とされる基礎知識と、それらを応用できる能力を持っている（応用することができる）。

【到達目標 C】 専門知識を用いて与えられた課題を分析し、社会の要請に合致した解決策を導き出す能力を持っている（導き出すことができる）。

【到達目標 D】課題を解決するための計画や方策を立案し、それを自主的に遂行できる能力を持っている（遂行できる）。

【到達目標 E】日本語や英語による情報収集・コミュニケーション能力、および成果や考察をまとめ、論理的に記述し、発表できる能力を持っている（発表できる）。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

到達目標 A から到達目標 E を達成するために求める能力および教育課程は以下のとおりである。編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の 2 つで評価する。

○ 知識・理解

- ・エンジニアとして基本的に備わっていることが必要とされる、社会と技術の関わりに関する理解、および倫理観の涵養（到達目標 A）。1 年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」「情報・データサイエンス科目」および専門基礎科目の「エネルギーと情報システム概論」の履修を通して修得する。
- ・自然科学・技術者として必要とされる、微積分、線形代数など数学に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1 年次に開講される「微分積分学」などの基盤科目の履修を通して修得する。
- ・自然科学・技術者として必要とされる、物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1 年次に開講される「一般力学」「物理学実験法・同実験」などの基盤科目の履修を通して修得する。
- ・半導体システム分野の技術に関する全般的な理解・知識、およびこれらの分野に共通の基礎的な知識（到達目標 B）。1 年次に開講される「エネルギーと情報システム概論」、「回路理論 I」の履修を通して修得する。

○ 能力・技能

- ・半導体システム分野の専門家として必要とされる数学的手法（到達目標 B）。1 年次第 3・4 タームから 2 年次にかけて開講される「応用数学」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・半導体システム分野の基礎となる概念、知識および手法（到達目標 B）。1 年次第 3・4 タームから 3 年次にかけて開講される専門科目の履修を通して修得する。
- ・半導体システム分野の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力（到達目標 B）。1 年次第 3・4 タームから 3 年次にかけて開講される専門科目の履修を通して修得する。
- ・実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する能力（到達目標 D）。2 年次第 1・2 タームから 3 年次にかけて開講される「電気工学基礎実験」、「プログラミング」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・実際的な問題・課題に対して、自ら実行計画を立て、軌道修正を行ないつつ、基礎および専門的知識や手法を用いて、問題・課題を解決する能力（到達目標 C, D）。4 年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

○ 総合的な力

- ・実際的な問題・課題を分析し、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力（到達目標 C, D）。4 年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭

で分かりやすく発表し討論する能力（到達目標 E）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

- ・グループワークにおけるチームワーク，リーダーシップやコミュニケーション能力（到達目標 E）。2年次から3年次にかけて開講される「電気工学基礎実験」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・人類や社会そして個人に存在する様々な問題が，社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを理解した上で，その問題解決に向けた取り組みができる能力（到達目標 A， D）。教養教育科目の「初修外国語」「領域科目」などの履修を通して修得する。
- ・研究遂行に必要な，英語に関する英会話，リーディング，およびライティング能力（到達目標 E）。3年次に開講される「技術英語演習」および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

5. 開始時期・受入条件

本プログラムへは，2年次のはじめに，本人の希望と成績を考慮して配属される。本プログラムに配属されるためには，1年次終了までに，教養教育科目と専門教育科目を合わせて34単位以上を修得していなければならない。

6. 取得可能な資格

所定の授業を履修することで，高等学校教諭一種免許状（工業）が得られる。その他にも，電気主任技術者については，所定の授業科目を履修し卒業した者に対して実務経験年数により資格が得られる。詳細は学生便覧に記載されている。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は，別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に，学習の成果の評価項目ごとに，評価基準を示し，達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4，A=3，B=2，C=1と数値に変換した上で，加重値を加味し算出した評価基準値に基づき，入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」，「優秀(Very Good)」，「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

○位置付け

卒業研究は，学生一人一人に対して設定された研究課題に沿って研究を行うことにより，総合的な研究能力を身につけることを目指す。より具体的な目標は以下の通りである。

1. 研究課題に基づいて自ら研究計画を立案し、それに従って研究を遂行する能力を習得する。
2. 研究課題に関連する資料を収集し、研究課題を深く理解し、問題を発見する能力を習得する。
3. 研究課題における問題を分析し、社会の要請に合致した解決策を導き出す能力を習得する。
4. 研究遂行に必要な英語に関するリーディング、ライティング、情報検索能力を習得する。
5. 研究結果を整理し、得られた成果の意義や有効性を理路整然とした文章で記述する能力を習得する。
6. 研究成果を口頭で分かりやすく発表し、討論する能力を習得する。

○配属方法・時期等

卒業論文着手要件は学生便覧に記載されているとおりである。

卒業論文着手要件を満たす4年次生以上を対象に、本人の希望に基づき配属を決定する。配属調整方法は事前に説明会を開いて対象者に周知する。なお、研究室配属とプログラム配属対象者向けに、2～4月頃、研究テーマ説明会や研究室公開（オープンラボラトリー）を開催する。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムは、半導体システムプログラムの教育をサポートする教員によって遂行されるが、教育の対象者は第二類に属する学生であるので、その遂行上の責任者は第二類の類長とする。また、計画・実施・評価検討と対処は、主として第二類教育プログラム委員会が中心となり、適宜、第二類会議（原則として毎月第一水曜日開催）で審議して決定する。状況・内容によっては類長の指示のもとでワーキンググループを設け、重点的に取り組む。

プログラム単位で対応を検討する必要がある場合には、該当するプログラムを主として担当する研究室群で対応する。その場合の責任者は類長が指名する。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

- ・本プログラムの学習・教育目標に照らし、各授業科目が適切に配置されているか。また授業内容は適切か。
- ・履修者は平均的には目標とする水準以上を達成しているか。
- ・適切なサイクルでプログラムのスパイラルアップを行うシステムが機能しているか。

○評価の実施方法

- ・履修者による授業評価結果、ならびに成績評価結果に基づき、それぞれの科目単位で自己評価を行う。
- ・プログラムのスパイラルアップに関しては、適当なサイクルで履修者に対するアンケートや、卒業生の声や企業のニーズを集めることなどを実施する。

○学生へのフィードバックの考え方とその方法

- ・個々の授業に関しては、授業評価結果や成績評価結果に対する担当教員のコメントを示す。
- ・プログラム構造などの見直しに対しては、その理由や目的を第二類ホームページなどを通じて伝える。

第二類 専門基礎科目

◎ 必修
○ 選択必修
△ 自由選択

授業科目	単位数	履指 電気システム情報	修定 半導体システム	毎週授業時数																備考
				第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				
				前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
				1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	
応用数学Ⅰ	2	◎	◎			4														
応用数学Ⅱ	2	○	◎				4													
応用数学Ⅲ	2	◎	◎					4												
離散数学Ⅰ	2	○	△					4										(情報科学部)		
応用数学総合	2	○	○					4												
応用数理A	2	△	△							4										
応用数理C	2	△	○						4											
確率・統計	2	◎	○				4													
技術英語演習	1	◎	◎									4								
エネルギーと情報システム概論	2	◎	◎			4														
回路理論Ⅰ	2	◎	◎			4														
プログラミングⅠ	2	◎	◎					4												
プログラミングⅡ	2	◎	◎						4											
プログラミングⅢ	2	△	○							4										
電気工学基礎実験Ⅰ	2	◎	◎				5	5												
電気工学基礎実験Ⅱ	2	◎	◎						5	5										
電気電子システム工学実験Ⅰ	2		◎								5	5								
電気電子システム工学実験Ⅱ	2	◎									5	5								

半導体システムプログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) エンジニアとして基本的に備わっていることが必要とされる、社会と技術の関わりに関する理解、および倫理観。	社会と技術の関わりを十分に理解し、十分な倫理観を持って行動できる。	社会と技術の関わりを標準程度理解し、標準程度の倫理観を持って行動できる。	社会と技術の関わりを最低限程度に理解し、最低限の倫理観を持って行動できる。
	(2) 自然科学・技術者として必要とされる、微積分、線形代数など数学に関する基礎的な知識。	微積分、線形代数など数学に関する、十分な基礎的知識を習得し活用できる。	微積分、線形代数など数学に関する、標準的な基礎的知識を習得し活用できる。	微積分、線形代数など数学に関する、最低限の基礎的知識を習得し活用できる。
	(3) 自然科学・技術者として必要とされる、物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識。	物理学の理論および実験方法に関する、十分な基礎的知識を習得し活用できる。	物理学の理論および実験方法に関する、標準的な基礎的知識を習得し活用できる。	物理学の理論および実験方法に関する、最低限の基礎的知識を習得し活用できる。
	(4) 半導体システム分野の技術に関する全般的な理解・知識、およびこれらの分野に共通の基礎的な知識。	半導体システムに関する全般的、および共通基礎的な知識を、十分に習得し活用できる。	半導体システムに関する全般的、および共通基礎的な知識を、標準程度に習得し活用できる。	半導体システムに関する全般的、および共通基礎的な知識を、最低限程度に習得し活用できる。
能力・技能	(1) 半導体システム分野の専門家として必要とされる数学的手法。	半導体システム分野の専門家として必要とされる数学的手法を、十分に習得し活用できる。	半導体システム分野の専門家として必要とされる数学的手法を、標準程度に習得し活用できる。	半導体システム分野の専門家として必要とされる数学的手法を、最低限程度に習得し活用できる。
	(2) 半導体システム分野の基礎となる概念、知識および手法。	半導体システム分野の基礎となる概念、知識および手法を、十分に習得し活用できる。	半導体システム分野の基礎となる基礎的な概念、知識および手法を、標準程度に習得し活用できる。	半導体システム分野の基礎となる基礎的な概念、知識および手法を、最低限程度に習得し活用できる。
	(3) 半導体システム分野の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力。	半導体システム分野の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する十分な能力を習得し活用できる。	半導体システム分野の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する標準的な能力を習得し活用できる。	半導体システム分野の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する最低限の能力を習得し活用できる。
	(4) 実際の問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する能力。	実際の問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する、十分な能力を習得し活用できる。	実際の問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する、標準程度の能力を習得し活用できる。	実際の問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する、最低限の能力を習得し活用できる。
	(5) 実際の問題・課題に対して、自ら実行計画を立て、軌道修正を行ないつつ、基礎および専門的知識や手法を用いて、問題・課題を解決する能力。	実際の問題・課題に対して、自ら実行計画を立て、軌道修正を行ないつつ、基礎および専門的知識や手法を用いて、問題・課題を解決する、十分な能力を習得し活用できる。	実際の問題・課題に対して、自ら実行計画を立て、軌道修正を行ないつつ、基礎および専門的知識や手法を用いて、問題・課題を解決する、標準程度の能力を習得し活用できる。	実際の問題・課題に対して、自ら実行計画を立て、軌道修正を行ないつつ、基礎および専門的知識や手法を用いて、問題・課題を解決する、最低限の能力を習得し活用できる。
総合的な力	(1) 実際的な問題・課題を分析し、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための創造的・論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力。	社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力を十分に習得し活用できる。	社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力を標準程度に習得し活用できる。	社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力を最低限程度に習得し活用できる。
	(2) 研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論する能力。	研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論するための、十分な能力を習得し活用できる。	研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論するための、標準的な能力を習得し活用できる。	研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論するための、最低限の能力を習得し活用できる。
	(3) グループワークにおけるチームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力。	グループ課題の解決を通して、チームワーク、リーダーシップ、発表・討論のためのコミュニケーション能力を、十分に習得し活用できる。	グループ課題の解決を通して、チームワーク、リーダーシップ、発表・討論のためのコミュニケーション能力を、標準程度に習得し活用できる。	グループ課題の解決を通して、チームワーク、リーダーシップ、発表・討論のためのコミュニケーション能力を、最低限程度に習得し活用できる。
	(4) 人類や社会そして個人に存在する様々な問題が、社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを十分に理解し、その問題解決に向けた取り組みができる能力。	人類や社会そして個人に存在する様々な問題が、社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを十分に理解し、その問題解決に向けた取り組みができる十分な能力を習得し活用できる。	人類や社会そして個人に存在する様々な問題が、社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを標準程度に理解し、その問題解決に向けた取り組みができる標準程度の能力を習得し活用できる。	人類や社会そして個人に存在する様々な問題が、社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを最低限程度に理解し、その問題解決に向けた取り組みができる最低限の能力を習得し活用できる。
	(5) 研究遂行に必要な、英語に関する英会話、リーディング、およびライティング能力。	技術者として必要とされる英語に関する英会話、リーディング、ライティングの能力を、十分に習得し活用できる。	技術者として必要とされる英語に関する英会話、リーディング、ライティングの能力を、標準程度に習得し活用できる。	技術者として必要とされる英語に関する英会話、リーディング、ライティングの能力を、最低限程度に習得し活用できる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、工学部第二類の専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担い、自主的・自立的態度の尊重、情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力の養成、ものごとの本質と背景を広い視野から洞察することのできる視座の確立、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を強化し、幅広い知識を真に問題解決に役立つ知識体系へと統合するとともに、既成の枠を超えた学際的・総合的研究を開拓し推進する能力を養成する。

令和8年度入学生対象

別紙5

担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
高根 美武	教授	7653	先端研 306N	takane@hiroshima-u.ac.jp
西田 宗弘	准教授	7654	先端研 307N	mnishida@hiroshima-u.ac.jp
角屋 豊	教授	7651	先端研 404A	kd@hiroshima-u.ac.jp
Holger F. Hofmann	教授	7652	先端研 403A	hofmann@hiroshima-u.ac.jp
富永 依里子	准教授	7049	先端研 407A	ytominag@hiroshima-u.ac.jp
東 清一郎	教授	7655	先端研 406A	sehiga@hiroshima-u.ac.jp
花房 宏明	准教授	7656	先端研 405A	hanafus@hiroshima-u.ac.jp
天川 修平	教授	7639	先端研 302A	amakawa@hiroshima-u.ac.jp
鈴木 仁	准教授	7645	先端研 306A	hitoshi-suzuki@hiroshima-u.ac.jp
坂上 弘之	助教	7683	先端研 301A	hsakaue@hiroshima-u.ac.jp
藤島 実	教授	6269	先端研 305A	fuji@hiroshima-u.ac.jp
佐々木 守	准教授	7686	先端研 304A	sasaki@dsl.hiroshima-u.ac.jp
吉田 毅	准教授	7643	先端研 303A	tyoshida@dsl.hiroshima-u.ac.jp
久保木 猛	准教授	7040	先端研 301W	kuboki@hiroshima-u.ac.jp
西澤 真一	准教授	7253	先端研 303A	nishizawa@hiroshima-u.ac.jp
寺本 章伸	教授	6266	半導体産業技術研究所	teramo10@hiroshima-u.ac.jp

黒木 伸一郎	教授	6267	半導体産業技術研究所	skuroki@hiroshima-u.ac.jp
岩坂 正和	教授	4372	半導体産業技術研究所	iwasaka@hiroshima-u.ac.jp
亀田 卓	教授	6268	半導体産業技術研究所	kameda3@hiroshima-u.ac.jp
後藤 秀樹	教授	7038	半導体産業技術研究所	hdkgotoh@hiroshima-u.ac.jp
中島 安理	准教授	6274	半導体産業技術研究所	anakajima@hiroshima-u.ac.jp
小出 哲士	准教授	6971	半導体産業技術研究所	koide@hiroshima-u.ac.jp
三宅 正堯	准教授	3042	半導体産業技術研究所	masataka-miyake@hiroshima-u.ac.jp
宋 航	准教授	6969	半導体産業技術研究所	hanghsong@hiroshima-u.ac.jp
Ji Sangmin	助教	3046	半導体産業技術研究所	smji@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

別紙5

応用数学グループ

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
柘植 直樹	教授	7590	A3-842	ntsuge@hiroshima-u.ac.jp
吉川 周二	教授	7592	A3-845	s-yoshikawa@hiroshima-u.ac.jp
川下 和日子	准教授	7602	A3-745	wakawa@hiroshima-u.ac.jp
若杉 勇太	准教授	7600	A3-843	wakasugi@hiroshima-u.ac.jp
鄭 容武	准教授	7595	A3-841	yongmoo@hiroshima-u.ac.jp
内山 聡生	助教	7599	A3-744	uchiyama@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。